

現場訪問

●アクティブセーフティトレーニングパークもてぎ 安全運転指導セミナー

社内でもできる交通安全教育の指導方法を紹介

昨年11月22日、アクティブセーフティトレーニングパークもてぎ(以下、ASTP)が主催する「安全運転指導セミナー」が開催された。同セミナーは安全運転管理者など企業の安全担当者の方々に、社内でもできる交通安全教育の指導方法を提供することを目的としている。この日は78名が参加した。



「安全運転管理者の心得」について述べるASTPの新家哲男所長



「入社3年間の研修プログラム」では運転経験年数別に3ヵ年にわたる計画的な指導方法を参加者に紹介



「運転タイプ別の指導方法を探る」では5つの運転タイプ別に、それぞれに対応した指導のポイントを解説



今回のセミナーでは、参加者がクルマの挙動が乱れた時の運転を体験できるスキッドリカバリーなどの実技項目も用意された

●各プログラムの詳細については、アクティブセーフティトレーニングパークもてぎへお問い合わせください。TEL: 0285-64-0100

「入社3年間の研修プログラム」は、新入社員など若年層の事故発生率が高いという企業の悩みを解決するために、ASTPが立案したものである。講師を務めるインストラクターが運転経験年数別に3ヵ年にわたる計画的な指導方法を参加者に紹介。1年目は、車両誘導能力や車両感覚などの基本的な技量向上と、危険予測トレーニング(KYT)などの危険に対する知識習得。2年目は、運転に対する習熟度が増し、危険への慣れが発生するため、これまでの運転行動を振り返ることで、正しい運転を定着させる。そして3年目は、自己評価手法を用いた路上観察走行とディスカッションを通して、自己の運転行動を客観視する能力を高めるといったものだ。

「安全運転管理者の心得」ではASTPの新家哲男所長が、安全運転管理者の責務や指導上の留意点を説明。「社員に運転行動を変えてもらうためには、管理者が社員に問いかけ、考えさせ、気づかせる指導を継続することが重要だ」と述べた。「大型車両や緊急車両との接近時における注意点」では、大型車両や緊急車両を用いたデモンストラクションや体験乗車を行い、それぞれの指導方法を伝えた。「いずれも企業ドライバーの事故実態に対応したプログラムなので、参加した方々が社内でも安全指導する際に役立ててほしい」と新家所長は語る。

NEWS REVIEW

●2012年Honda安全運転普及本部 年末ご挨拶会 安全マインドをお客様と社会に幅広く提供するための普及活動



伊東孝紳・本田技研工業(株) 代表取締役社長執行役員

昨年12月14日、Honda青山ビルにて「2012年Honda安全運転普及本部年末ご挨拶会」が開催され、交通関係者約300名が参加した。

報告会では、伊東孝紳・本田技研工業(株)代表取締役社長執行役員が「私たちはHondaの安全スタンスであるすべての人の安全を追求するため、グローバルスローガンを「Safety for Everyone」と定め、その具現化のために「テクノロジー」「ヒト」「コミュニケーション」の3領域で、それぞれを高めると同時に、相互に連携することで効果をさらに発揮させていきたいと考えています。その「ヒト」領域である安全運転普及活動においては、交通安全思想を普及拡大させるために、今日お集まりの行政・民間団体の皆様と連携を密にして幼児から高齢者までライフステージに応じた交通安全教育活動を継続していきます」と挨拶。さらに「共存安全による事故ゼロのモビリティ社会を1日でも早く実現させるため、より一層取組みを強化していきたい」と述べた。

続いて、千葉英雄・本田技研工業(株)安全運転普及本部事務局長が、2012年の安全運転普及活動の報告と今後の取り組みについて、映像を交えて紹介した。

最後に、来賓を代表して石井隆之・警察庁交通局長が挨拶。「運転者のみならず、交通社会に参加するすべての人の安全をめざすという崇高な理念に基づき、熱心な取組みに感銘を受けました。参加体験型の実践教育を展開するなど、国民の安全意識の高揚に多大な貢献をされています。こうした活動を警察としても心強く思っており、引き続き取り組んでほしい」と語った。報告会の後には、懇談会が開かれ、交通関係者の交流の場となった。

TOPICS 1



熊本セントラル病院でリハビリ中の2名の方が交通教育センターレインボー熊本でサポートプログラムを受講



インストラクターと一緒に実車に乗り、交通教育センター内のコースで認知・判断・操作の基本行動を体験

●サポートプログラムに関するお問い合わせ先 本田技研工業(株)安全運転普及本部 TEL: 03-5412-1736

厚生労働省の資料によれば、全国には約170万人のリハビリ加療中の方々が社会復帰をめざしている。そして、こうした方々の中には、運転復帰を希望される方がたくさんいる。しかし、クルマの運転を再開できるかどうかの明確な基準は存在せず、担当の医師や作業療法士の方々がその判断に苦慮しているのが現状だ。そこで昨年4月、Hondaは四輪ドライビングシミュレーター技術を活用して、リハビリ中の方々の運転に対する評価や訓練をサポートするための「リハビリテーション向け運転



サポートプログラムの受講前に、サポートソフトを使って評価を受ける

リハビリテーション向け「実車安全運転サポートプログラム」(以下、サポートプログラム)を発売。さらに、最終的な運転能力の評価をサポートする実車走行によるリハビリテーション向け「実車安全運転サポートプログラム」(以下、サポートプログラム)をHondaの交通教育センターへ導入した。

とができる。また、トレーニング車両にはCCDカメラが取り付けられており、自分自身の運転を映像で振り返ることができると同時に、注意ポイントの「気づき」につなげることができるのも特長だ。昨年11月、熊本セントラル病院(熊本県大津町)でリハビリ中の2名の方が交通教育センターレインボー熊本でこのプログラムを受講した。受講にあたっては、サポートソフトを使って、運転中の視覚情報の範囲や認知・判断に対する適応性およびアクセルやブレーキ操作時の反応速度などを測定し、一定の評価を受けている。



熊本セントラル病院 リハビリテーション科次長・企画室室長の 大島正道さん

2年半ぶりに運転したという55歳の方は「実際に運転することができて、うれしかった」と笑顔を浮かべた。また、病気のため3年以上、クルマの運転をしていなかったという60歳の方は「久しぶりにクルマに乗って『運転は楽しい』とあらためて感じました。こうした施設で安全に練習ができて良かったと思います。事前にサポートソフトによるトレーニングをやっていたことも安心感につながりました」とサポートプログラムを体験した感想を話した。また、受講者の家族も実車走行の様子を見ることが運転復帰への不安解消ができたようである。

●リハビリテーション向け実車安全運転サポートプログラム リハビリ中の患者の方に実車走行を通じて、運転操作・感覚を把握してもらおう

TOPICS

2

●ホンダカーズ 山陰中央 幼稚園で交通安全指導を实践

昨年12月6日、ホンダの四輪販売会社であるホンダカーズ山陰中央(本社・鳥取県米子市)が地域貢献活動の一環として、米子市内にあるにしき幼稚園で交通安全教室を開催。「あやとりい ひよこ編(以下、あやとりい)」を使って、同社スタッフの江原愛季さんが園児70名に交通安全指導を行った。「あやとりい」は、全国各地の交通安全指導員が幼児向けの交通安全教室などで活用している交通安全教育プログラムである。



「あやとりい」を使って園児に交通安全指導を行うHonda Cars 山陰中央の江原愛季さん

最初は「音当てクイズ」。園児たちの前に交通場面のイラストを置き、交通に関する音を順番に聞かせる。何の音がかわかった園児に、その音がイラストのどこに当たるかを前に出て指し示してもらった。

「トラックがバックする時の警告音」を聞かせた時は「トラックがバックする時は『ピー、ピー』と」と、江原さんが園児に問いかける。そして、園児は前に出て、正しいと思う位置に子どものイラストを歩道に貼った。江原さんは、歩道がある時は必ず歩道を歩くように伝える。さらに路側帯のある道路では白線の内側を、歩道も路側帯もない道路では道路の右側端を歩くことを、イラストを使って説明した。



江原さんは園児も参加してもらえるように交通安全教室を進めた

※1 あやとりい＝Hondaが三重県鈴鹿市と協力して開発した交通安全教育プログラム。幼児～小学校低学年対象の「あやとりい ひよこ編」、小学3～4年生対象の「あやとりい」、幼児～小学校高学年対象の「あやとりい 自転車教室」、高齢の歩行者・自転車利用者対象の「あやとりい 長寿編」がある。あやとりいは「あんぜんを やさしく ときあかし りかいして いただく」の略。詳細は以下ホームページを参照。
<http://www.honda.co.jp/safetyinfo/kyt/ayatori/>

次に交通ルールの再確認。歩道と車道が分かれている道路のイラストを見せ、「どこを歩けばいいでしょうか?」と、江原さんが園児に問いかける。そして、園児は前に出て、正しいと思う位置に子どものイラストを歩道に貼った。江原さんは、歩道がある時は必ず歩道を歩くように伝える。さらに路側帯のある道路では白線の内側を、歩道も路側帯もない道路では道路の右側端を歩くことを、イラストを使って説明した。

「私たちが日頃、交通安全指導を行っていると思います。そうした内容を、今日は子どもたちに再確認してもらいたい機会になりました。一方的に話すのではなく、音を聞いたイラストを見たりしながら考えるように工夫されていたので、子どもたちも興味を持って取り組んでいたと思います」と話す。

江原さんは「このような交通安全の話をするのは初めての経験です。子どもたちとコミュニケーションをとりながら、楽しく学んでもらえるように心がけました。道路のどこを歩けばいいのかを「あやとりい」を使うことで、わかりやすく伝えることができたと思います」と指導を終えた感想を語った。

第1回 久喜地区 親子交通安全教室

みて きいて たいけんして 親子で学ぶ 交通安全

主催：(株)エフテック 久喜事業所



ダミー人形を使いシートベルト未着用時の急停止した状況を再現。全席でのシートベルト着用の重要性を訴えた

子どもたちに「あやとりい ひよこ編」を使って、道路の正しい歩き方をアドバイスする久喜市交通指導員

まず、親と子に別れ、親には安全運転の基礎知識と子どもの行動特性を学んでもらい、子どもには久喜市交通指導員が「あやとりい ひよこ編」を使って、基本的な交通ルールを説明。この後、親子が一緒にになり、屋外で人形を使った巻き込み事故や飛び出し事故の再現、シートベルト実験などを見学した。



巻き込み事故の再現では、最初に左折時にトラックの後輪タイヤの通る位置を子どもたちがジュースの紙バックを置いて予測。その後、実際にトラックを動かし、後輪の軌跡を確認してもらい、交差点での立つ位置や危険ポイントを伝えた

3

●久喜地区親子交通安全教室 親子で楽しみながら交通安全を学ぶ

4 地域の行政や交通安全関連団体との連携を強化

●九州地区交通安全普及活動合同報告会



昨年12月21日、熊本県熊本市内のホテルで「平成24年度九州地区交通安全普及活動合同報告会」(主催：本田技研工業(株)安全運転普及本部 熊本普及ブロック)が開催された。同報告会は、HondaおよびHonda関連企業と地域の交通安全関連団体との情報交換を目的としている。この日は、九州地区の行政や交

通安全関連団体の代表者および交通指導員、熊輪会※2のHondaパートナーシップインストラクターなど67名が参加した。

主催する熊本普及ブロックは熊本県内で展開している高校生交通安全教育活動(6面参照)の活動実績などを報告。熊輪会からは所属する各社の交通安全活動が紹介された。この他、九州地区交通

安全指導者の紹介と年間活動実績の報告がなされ、最後に、熊本県教育庁の城長課長が総評を述べた。

総評を述べる熊本県教育庁の城長課長



※2 Honda災防協(本田技研工業(株)関連企業災害防止協議会)、熊輪会は、Hondaの関連企業からなる組織。

●関東・甲信越地区交通安全普及活動合同報告会



1月17日には、埼玉県川越市内のホテルで「2012年度 関東・甲信越地区交通安全普及活動合同報告会」(主催：本田技研工業(株)安全運転普及本部 埼玉普及ブロック)が開催された。同報告会には関東・甲信越地区の警察や交通安全関連団体の代表者および交通指導員、Honda災防協※2のHondaパートナーシップイ

ンストラクターなど52名が参加した。

まず、埼玉普及ブロックが2012年度の活動実績を報告。Honda災防協からは代表事業所による社内・地域での交通安全活動が紹介された。この他、埼玉県入間市交通指導員による指導の実演も行われた。最後に、埼玉県警察本部交通安全対策推進室の長沢室長が総評を述べた。

埼玉、熊本の両会場とも報告会の後には懇談会も行われ、参加者お互いに「交通安全に対する想い」を共有した。



総評を述べる埼玉県警察本部交通安全対策推進室の長沢室長